

令和7年度使用中学校教科用図書
調査研究結果報告書

数 学



京築教育事務所管内教科用図書調査研究協議会

中 学 校 教 科 書 一 覧

教科書種目	数 学
-------	-----

発行者名	番号	略称	教科書名(シリーズ)
東京書籍(株)	2	東 書	新編 新しい数学
大日本図書(株)	4	大日本	数学の世界
学校図書(株)	11	学 図	中学校 数学
教育出版(株)	17	教 出	中学数学
(株)新興出版社啓林館	61	啓林館	未来へひろがる数学
数研出版(株)	104	数 研	これからの 数学
日本文教出版(株)	116	日 文	中学数学

教科書種目	発 行 者		教科書名(シリーズ)
	番 号	略 称	
数学	2	東書	新編 新しい数学

項 目		項 目 毎 の 調 査 研 究 結 果
各教科共通の選定の観点	1 内容の範囲及び程度	学習指導要領に示す数学科の目標達成に結びつく内容になっている。 内容の程度は、各学年の発達の段階に適応している。 学習指導要領に示す教科及び各学年の目標に従い、学習指導要領に示す各学年の内容及び内容の取扱いに示す事項を不足なく取り上げている。
	2 内容に関する配慮事項	各教科等及び学年相互間の関連を図り、系統的・発展的な指導ができるよう配慮されている。 言語活動の充実については、多様な意見が出やすい場面には紙面右下の2次元コード「対話シート」を通して、生徒一人ひとりが主体的に自分の考えを表現したり、共有したりしやすいように大きな図を配置している。ペア学習やグループ学習、教室全体での意見の共有などの協働的な学びの場面で一人一台端末を効果的に利用できるようにしている。 体験的な学習や問題解決的な学習については、「Q（考えてみよう・調べてみよう）」で問題解決的な学習を用意している。「補助発問（①、②、・・・）」を手掛かりに生徒が既習をいかして自ら考えたり、調べたりする活動を通して、新たな知識や技能を身に付けるようにしている。知識・技能を活用する場面では、「深い学びのページ」をほぼ全ての章に設定している。側注の問題解決の過程に沿って、生徒が自ら考え、対話を通して考えを深めるようにしている。 個に応じた指導については、必ず解けるようになりたい問題には♡マークを付けており、つまずきに対応できるようにしている。また、早く終わった生徒のためにQRコンテンツで補充問題を設定している。また、章末のまとめは基本的な「章の問題 A」と発展的な「章の問題 B」の2段階で設定されている。また、自分の進度に合わせて自学自習できる、QRコンテンツが用意されている。
	3 分量	配当時数は第1学年129時間、第2学年96時間、第3学年119であり、本文は、第1学年248ページ、第2学年192ページ、第3学年224ページで、授業時数から見て適切な分量である。 内容の配分も適切であり、各領域にも偏りはない。
	4 使用上の便宜	1単位時間で扱う内容を見開き2ページにまとめられている。 デジタルコンテンツについては、QRコンテンツが本文中に1752箇所に掲載されている。「Dマーク」のついた箇所では、インターネット上にデジタルコンテンツを用意している。「マイ教科書・マップ」「動画」「シミュレーション」「フラッシュカード」「ヒントと解答」「ワークシート・対話シート」「教科リンク・ちょっと確認・Web サイト」を豊富に用意している。「虫眼鏡マーク」では、「見方・考え方」を引き出したり、学びを振り返って「見方・考え方」を意識付けたりできるようにしている。また、過去5年間分の入試問題にもアクセスできるようになっている。「深い学びのページ」では、問題発展・解決の過程を意図した活動を通して「思考力・判断力・表現力」の育成

		を図っている。生徒が自らの学びを振り返ることができる仕組みやコーナーを用意している。 資料、挿絵、写真、図など学習に有効に働くように適切に配置されている。 発展的な学習内容については「発展」マークが明記されている。
	5 印刷・製本等	ユニバーサルデザインフォントやカラーユニバーサルデザインに配慮している。印刷は鮮明であり、文字の大きさ、字体、行間も適切である。製本の様式、材料なども適切である。 巻末の教具は、制作や観察に生かせるもので、ミシン目も入っていて簡単に切り離せるなど、細かい配慮がなされている。
教科ごとの選定の観点		- 数学科の総括目標の達成に資する内容となっている。 4領域構成になっている。またどの領域も「数学的活動」を通して指導できる内容となっている。個別最適な学びと協働的な学びを通して主体的・対話的で深い学びを実現できる内容となっている。 【A 数と式】 「素因数分解」と「累乗の指数」を0章で取り扱っている。 - 第2学年の「文字式の利用」では全国学力・学習状況調査で取り扱われている題材・問題を取り上げている。 「連立方程式の利用」では、立式させる際に、言葉の式、表、数直線をもとに数量関係を明らかにしている。 「平方根」で近似値を取り扱っている。 「2次方程式」では平方根、解の公式、因数分解の順に取り扱っている。 【B 図形】 「証明のすすめ方」の節を設け、「構想を立てて証明する」内容になっている。 「相似の利用」で有効数字を取り扱っている。また「相似」の証明は、「2組の角がそれぞれ等しい」の1つの相似条件のみの取り扱いになっている。 【C 関数】 「1次関数の利用」では、全国学力・学習状況調査や高校入試で扱われているような題材・問題を取り扱っている。 「2次関数」で3年間の関数の学習を振り返る構成になっている。 【D データの活用】 「確率」「箱ひげ図」の順になっている。 「確率」では、袋の中から2個の玉を取り出す事象を取り上げる必要がある。 - 数学的活動については、学習指導要領解説に示されている9つの数学的活動例の題材は、ほぼ全て設定されている。また、日常生活や社会の事象から問題を見出し解決する活動では、「数学化」や「活用・意味づけ」にあたる発問を設定し、数学の事象から問題を見出し解決する活動では、「統合・発展」にあたる発問を設定している。 - 章末の「問題 B」では、全国学力・学習状況調査に対応した問題を取り上げており、根拠を明らかにし、筋道立てて説明する場面を設定している。また、「振り返りレポート」を配置し、学習で働かせた見方・考え方振り返る確認できるように設定されている。

	9 紙面右下の2次元コードから学びをひろげるデジタルコンテンツを利用できるようにしている。1人1台端末を授業のなかで主体的・対話的で深い学びを表現したり、生徒の自学自習を助けたりするための学びの文房具として位置づけている。 「Dマーク」のついた場所では、インターネット上にデジタルコンテンツを用意している。 10 授業中に生徒が操作し、主体的・対話的で深い学びを実現できるオリジナルのシミュレーション（1年136コンテンツ、2年81コンテンツ、3年84コンテンツ）を用意している。多様な方法で解決したり、値を変更して発展的に考えたりする生徒の学びの自由度を大切にしている。 11 「用語・記号」は、各学年の内容と密接に関連させて取り上げた内容になっている。
--	--

教科書種目	発 行 者		教科書名(シリーズ)
	番 号	略 称	
数学	4	大日本	数学の世界

項 目		項 目 毎 の 調 査 研 究 結 果
各教科共通の選定の観点	1 内容の範囲及び程度	学習指導要領に示す数学科の目標達成に結びつく内容になっている。 内容の程度は、各学年の発達の段階に適応している。 学習指導要領に示す教科及び各学年の目標に従い、学習指導要領に示す各学年の内容及び内容の取扱いに示す事項を不足なく取り上げている。
	2 内容に関する配慮事項	各教科等及び学年相互間の関連を図り、系統的・発展的な指導ができるよう配慮されている。 言語活動の充実については、「判断しよう」「伝えよう」などの場面で、思考力・判断力・表現力やコミュニケーション能力を伸ばす問いが用意されている。さらに、まちがい問題などで、批判的思考を養うこともできる。各章の「活動」では、自分の考えを説明したり、互いの考えを伝え合ったりする活動になるように問題の問い方を工夫している。また、「判断しよう」「伝えよう」のマークのついた問題では、数学的な表現を用いて他の人に伝える問題となっている。 体験的な学習や問題解決的な学習については、各章の「利用」の課題において問題解決の進め方を4つのステップ方式で構成しており、章末の「活用・探究」や巻末の「課題学習」等の問題でも問題解決的な学習の充実を図っている。 個に応じた指導については、「例」と「Q」の間に必要に応じて「たしかめ」を設け、基礎基本の定着を図るようにしている。早く問題を解き終わった生徒のために、問の横欄に「プラス・ワン」の問題を記載している。「プラス・ワン」の解答は次ページの脚注として掲載されており、活用しやすい。節末の「たしかめよう」では、大問ごとに戻るべき箇所が明示されているためやや復習しにくい。また、各章末に基本的な「○章をふり返ろう」と応用的な「力をのばそう」の2段階で構成されており、個に応じた指導に対応している。さらに巻末には「補充問題」「総合問題」が用意されている。
	3 分量	配当時数は、第1学年125時間、第2学年92時間、第3学年104時間であり、本文は、第1学年263ページ、第2学年199ページ、第3学年235ページで、授業時数から見て適切な分量である。 内容の配分も適切であり、各領域にも偏りはない。
	4 使用上の便宜	1単位時間で扱う内容を見開き2ページにまとめている。 目次で、「これまでに学んだこと」として既習事項とのつながりを示している。章の導入でも、これまでの学習とのつながりを具体的に示している。 各項ごとにめあてが明示されており、配当時間の目安が□で示されている。 各章末に、「活用・探究」問題が掲載されており、学習した内容を使ってさらに挑戦、探究する構成になっている。 章末や巻末にある「社会にリンク」「MATHFUL」などの読み物資料が充実しており、興味関心を引き出したりキャリア教育との関連を図ったりしている。

		紙面上に掲載された2次元コードから、問題のシミュレーションや動画をみることができる。「数学の世界WEBプラス」（ウェブサイト）にすべての例・例題についての解説動画を用意し、個々の状況に応じて繰り返し視聴し、理解が高まるようにしている。C B T対応の問題やグラフ作成ツールも用意されている。 巻末に「〇年のまとめ」として重要なことがらを章ごとにまとめている。切り取ってコンパクトな冊子にできるため、その後も利用できる。
	5 印刷・製本等	ユニバーサルデザインフォントやカラーユニバーサルデザインに配慮している。印刷は鮮明であり、文字の大きさ、字体、行間も適切である。製本の様式、材料なども適切である。領域ごとに見出しの色が変わり、紙面の印象が変わる。 巻末の教具は、制作や観察に生かせるもので、ミシン目も入っていて簡単に切り離せるなど、細かい配慮がなされている。
教科ごとの選定の観点	1 数学科の総括目標の達成に資する内容となっている。 2 4領域構成になっている。また、どの領域も「数学的活動」を通して指導することができるようになっている。 3 [A 数と式] - 第2学年「式の利用」では、学習指導要領解説や全国学力・学習状況調査で扱われているような題材を取り上げている。 「連立方程式」では、加減法と代入法のどちらを先に学習しても進めやすいように工夫されている。 「連立方程式の利用」では、立式の段階で、表を利用して数量関係を明らかにする指導が中心である。 「平方根」で、有効数字を取り扱っている。 「2次方程式」の解き方は、因数分解・平方根・解の公式の順に取り扱っている。 4 [B 図形] 「角と平行線」の節の中に、図形の性質を補助線をひいて調べる時間を設定している。 「構想を立てて説明する」は、指導に工夫が必要である。 - 第2学年「三角形と四角形」では、反例を丁寧に押さえている。 「相似」では、相似の位置で1つの項（1時間）を設定している。 5 [C 関数] 「1次関数の利用」では全国学力・学習状況調査や高校入試で扱われているような題材・問題を取り上げている。 - 第3学年「関数」では、導入課題とその後の学習の関連に工夫が必要である。 6 [D データの活用] 「箱ひげ図」「確率」の順になっている。 「標本調査」では、調査方法や結果が適切か考察する内容が本文中に含まれている。 - 実際のデータが多く用いられている。 - 実社会において、データ活用が役立つことを紹介するなど、データ活用に関する知識技能の必要性を実感できるよう配慮されている。	

	・ データ活用が有効な場面では、コンピュータや電卓の使用を推奨している。 7 数学的活動については、学習指導要領解説に示されている9つの数学的活用例の題材はほぼ全て設定されている。また、題材の半分以上が各章の「利用」で取り上げられているため、指導者は数学的活動を意識して取り組むことができる。 8 「判断しよう」や「伝えよう」で、判断した理由や自分の考えを数学的に説明する記述式の問題が設定されている。 9 電卓を使う場面を設定し、効率よく学習できるようになっている。 また、本文の「WEB」マークをつけた箇所では、各学年巻頭のQRコードからアクセスして利用できるデジタルコンテンツを用意している。 10 「図形」の作図や正多面体の組み立て、因数分解や三平方の定理のパズル、「確率」のサイコロ等、操作的活動を取り入れた内容になっている。 11 「用語・記号」は、各学年の内容と密接に関連させて取り上げた内容になっている。
--	---

教科書種目	発 行 者		教科書名(シリーズ)
	番 号	略 称	
数学	1 1	学図	中学校 数学

項 目		項 目 毎 の 調 査 研 究 結 果
各教科共通の選定の観点	1 内容の範囲及び程度	学習指導要領に示す数学科の目標達成に結びつく内容になっている。 内容の程度は、各学年の発達の段階に適応している。 学習指導要領に示す教科及び各学年の目標に従い、学習指導要領に示す各学年の内容及び内容の取扱いに示す事項を不足なく取り上げている。
	2 内容に関する配慮事項	各教科等及び学年相互間の関連を図り、系統的・発展的な指導ができるよう配慮されている。 言語活動の充実については、発見した課題を「Q」として数学の問題におきかえ、問題解決への話し合いの中から「目標」を見いだしている。「Q」では問題解決の見通しを立てる話し合いの場面を設け、自分の考えを他者に説明し伝える活動を積極的に取り入れ、数学的に表現する力が高められるようにしている。本文中の「説明する力をつけよう」では、問題解決の方法などをわかりやすく正確に他者に伝えるためにはどうしたらよいかを、対話を通して考え、簡潔・明瞭・的確に表現する力が高められるようにしている。 体験的な学習や問題解決的な学習については、「Q」に数学的な見方・考え方の例を示し、問題解決に向けて見通しを立てることにより、筋道を立てて論理的に考察できるようにしている。「数学的活動」のページにおいて問題解決の過程を示すことで、生徒は解決方法を確認しながら進めることができる。また、問題解決の見通しを立てるときに必要な「見方・考え方」を側注で示し、意識的に取り組ませるようにしている。 個に応じた指導については、「計算力を高めよう」で類型別に問題を提示し、自学自習ができるようにしている。QRコードを各種準備し、詳しい解答をみたり、習熟やつまずきに対応したりできる。章末のまとめ問題は、「基本・応用・活用」の3つに分け、個々の習熟度に柔軟に対応している。また、活用問題では、全国学力調査問題を取り扱っている。
	3 分量	配当時数は、第1学年128時間、第2学年100時間、第3学年123時間教科書本文は、第1学年274ページ、第2学年216ページ、第3学年258ページで、授業時数からみて適切な分量である。 内容の配分も適切であり、各領域にも偏りはない。
	4 使用上の便宜	各章、各節のはじめに「疑問を発見する」ページを設定している。身のまわりの生活の中や数学の学習の中から主体的に疑問を発見するようにしている。発見した疑問を数学の問題におきかえ、数学化した問題「Q」を考え、問題解決に向けた話し合いの中で、「数学的な見方・考え方」・「目標」を見出し、問題解決の見通しを立て解決していくことで、様々な知識を獲得していく構成となっている。そして新たな疑問を発見する。 例の「考え方」では、根拠となる考え方や原理・法則が理解できるようにしている。また、解答や照明が記述の模範となるようにノート形式で示している。本文中の側注やQRコードに「ふりかえり」を入れて、小学校での学習やこれまでの学習を想起できるようにしている。巻末の「深めよう」では、

		章で学習した内容に関連した発展的な題材を、高校数学の内容を手がかりに問題を解決できるようにしている。 QRコードには10種類が提示されている。「アニメーション」「活動」「データ」「映像」「ふりかえり」「チャレンジ」「パトロール隊」「別の解き方」「解答」「リンク」。 資料、挿絵、写真、図などは学習に有効に働くよう適切に配置されている。発展的な学習内容については「トライ」「発展」のマークが付いている。
	5 印刷・製本等	UDフォントを使用し、文節での改行をすることで、文章を読む段階でつまづきがないように配慮している。見やすく区別しやすい色、デザインを採用するとともに、色だけでなく形でも判別できるようにしている。 巻末の教具は、制作や観察に生かせるもので、ミシン目も入っていて簡単に切り離せるなど、細かい配慮がなされている。
教科ごとの選定の観点		- 数学科の総括目標の達成に資する内容となっている。 4領域構成になっている。また、どの領域も「数学的活動」を通して指導することができるようになっている。 〔A 数と式〕 「数と式」では、「計算力を高めよう」を設定し、生徒の実態に応じて計算技能の習熟を図ることができるようにしている。 「方程式の利用」では、方程式を利用して問題を解く手順を段階をおって示し、数学的な表現や処理の仕方が習熟できるようにしている。 〔B 図形〕 「図形の論証」の導入では、命題を仮定と結論に分ける。根拠となることがらを説明する。証明を完成させる。などの問題を取り入れ、論証の方法が段階をおって無理なく身に付くようにしている。 「円周角の定理」では、操作活動を基に、円周角と中心角の関係を帰納的な方法によって予想し話し合う活動を取り入れ、課題意識をもって演繹的な証明に結びつけることができるようにしている。 3年の図形領域では、「相似な図形」→「円」→「三平方の定理」の順に章を配列し、三角形の相似条件と円周角の定理に関連づけて学べるようにしている。 3年の「相似な図形」で有効数字を取り扱っている。 〔C 関数〕 「1次関数の利用」の場面では、水を熱するときの時間と水温の関係をグラフに表し、おおむね直線上に並んでいることから1次関数とみなして予測する活動を設定し、事象を数理的に考察し、表現する能力が習得できるように工夫している。 「2次関数の利用」では、スピードと制動距離の関係について関数を使って考察することを通して、交通安全を考える上で数学が役立つことを理解できるようにしている。 〔D データの活用〕 「確率」「箱ひげ図」の順になっている。 - 情報処理が効率的にできるよう、表計算ソフトの使い方を掲載している。 - 数学的活動については、学習指導要領解説に示されている9つの数学的

	活動例の題材はほぼ全て設定されている。「数学的活動のページ」では、「算数・数学の学習過程のイメージ」を具現化し、1つの課題に対する問題発見から解決までの過程が見えるよう、ページ右側にいま、どのような過程で学習しているかが明確になるように示している。 8 「Q」に数学的な見方・考え方の例を示し、問題解決に向けて見通しを立てることにより、筋道を立てて論理的に考察できるようにしている。巻末の「表現する力を身につけよう」では、レポートの作成から発表までのポイントや例を提示し、表現力を高める活動ができるようにしている。 9 QRコードで「パトロール隊」「チャレンジ」「ふりかえり」を設定し、基礎的・基本的な知識や技能が確実に習得できるようにしている。「パトロール隊」では、生徒が誤りやすい問題を解説している。 10 「正の数・負の数の加法」では、カードゲームを取り入れて興味・関心を高め、コマの動きを基に加法の計算の仕方を考察し、一般化が図れるようにしている。 11 「用語・記号」は、各学年の内容と密接に関連させて取り上げた内容になっている。
--	---

教科書種目	発 行 者		教科書名(シリーズ)
	番 号	略 称	
数学	1 7	教出	中学数学

項 目		項 目 毎 の 調 査 研 究 結 果
各教科共通の選定の観点	1 内容の範囲及び程度	学習指導要領に示す数学科の目標達成に結びつく内容になっている。 内容の程度は、各学年の発達の段階に適応している。 学習指導要領に示す教科及び各学年の目標に従い、学習指導要領に示す各学年の内容及び内容の取扱いに示す事項を不足なく取り上げている。
	2 内容に関する配慮事項	各教科等及び学年相互間の関連を図り、系統的・発展的な指導ができるよう配慮されている。 言語活動の充実については、『学びのプロセス』として、「自分で考えてみよう」や「友だちの考えを知ろう」、「話し合ってみよう」を適宜設け、自分の考えを説明したり、他者の考えを聞いたりする場面を設定している。協働的な学びで学習を深めてほしい場面には、適宜、学習用端末や電子黒板を利用して、多様な考えを比較しながら学び合う学習活動をイメージした紙面を掲載している。 体験的な学習や問題解決的な学習については、巻頭「大切にしたい数学的な見方・考え方」で、数学の学習で働かせたい見方・考え方を紹介している。どのような見方・考え方があるかを知ることができるようになっている。具体的な問題場面で生徒に働かせてほしい見方・考え方には吹き出しに（羅針盤）をつけている。知識・技能を活用する場面で「学びのプロセスページ」を設け、問題発見・解決の過程を生徒に意識づけられるようにしている。紙面の右側には「問題を見いだす→問題をつかむ→見通しを立てる→問題を解決する→ふり返る→深める」といった学びのプロセスを示し、問題発見・解決の過程を意識して取り組めるようにしている。 個に応じた指導については、「例」「たしかめ」「問」のセットで取り組むことにより、基礎基本の確実な定着を図ることができるようにしている。また、章末の「学習のまとめ」や巻末の「学びのマップ」に既習事項をまとめており、各自で振り返りながら学習できるように工夫されている。 早く問題を解き終わった生徒のために、問いの横欄に巻末の補充問題のページを記載している。「補充問題」の中には「実力アップ問題」もあり個に応じた対応ができるようになっており問題も多い。しかし章末の問題には、基本編と応用編のように難易度に応じた問題を工夫する必要がある。
	3 分量	配当時数は第1学年126時間、第2学年98時間、第3学年117時間であり、本文は、第1学年277ページ、第2学年222ページ、第3学年248ページで、授業時数から見て適切な分量である。 内容の配分も適切であり、各領域にも偏りはない。

	4 使用上の便宜	学習の基本展開として「？」（学習過程で生じる生徒の疑問）から主体的・対話的な学びを通して！（学習してわかったこと、解決のしかた）を見いだし、さらに「！？」（新たな疑問）へつなげる数学的活動のサイクル（「？」→「！」→「！？」）を位置付けることで、一人一人の生徒が問をもって学び合いながら考えて深めていける構成にしている。 巻頭で、数学の学習に必要な「数学的な考え方」を、具体例をもとに紹介している。各ページ右側にスペースを設け、「数学的な見方・考え方」や補充問題のページ数、既習の確認事項等が掲載されており、視覚的に分かりやすい紙面になっているが、スペースを確保するために本文が詰まっている。 各節の終わりに「基本の問題」が設定されており、基礎・基本の定着が図れるように工夫されている。 資料、挿絵、写真、図などは学習に有効に働くよう適切に配置されている。発展的な学習内容についてはマークが明記されている。 「章の問題」にはQRコードがあり、解決の手立てに導かれている。
	5 印刷・製本等	ユニバーサルデザインフォントやカラーユニバーサルデザインに配慮している。印刷は鮮明であり、文字の大きさ、字体、行間も適切である。製本の様式、材料なども適切である。また、環境にやさしい再生紙と植物油インクを使用している。 巻末の教具は、制作や観察に生かせるもので、ミシン目も入っていて簡単に切り離せるなど、細かい配慮がなされている。
教科ごとの選定の観点	1 数学科の総括目標の達成に資する内容となっている。 2 4領域構成になっている。また、どの領域も「数学的活動」を通して指導することができるようになっている。 3 [A 数と式] - 第2学年「式の活用」では、学習指導要領解説や全国学力・学習状況調査で扱われているような題材・問題を取り上げている。 「2次方程式」の解き方は、因数分解・平方根・解の公式の順に取り扱っている。 - 第3学年の「式の活用」の「Q」は、後の学習にどのように結びつけるのか明確でない。 「平方根」の活用で、有効数字を取り上げている。 4 [B 図形] - おうぎ形の面積については、「6章 平面図形」で取り上げ、再度、「7章 空間図形」の円錐の側面積の学習で扱うようにしている。学び直す機会を設けて、しっかりと理解が定着するよう配慮している。 - 証明の方針を立てるための考え方を段階的に示し、学習が進行するにつれて徐々に証明のしかたが身につくようにしている。 5 [C 関数] 「1次関数の活用」では全国学力・学習状況調査や高校入試で扱われているような題材・問題を取り上げている。 6 [D データの活用] 「データの分析」「確率」の順になっている。 「確率」では、袋の中から2個の玉を取り出す事象を取り上げる必要がある。	

	7 数学的活動については、学習指導要領解説に示されている9つの数学的活動例の題材は概ね設定されている。題材の多くが「活用」のページ以外で取り扱われているため、指導者は数学的活動に留意しながら取り組む必要がある。 8 「自分で考えてみよう」や「友だちの考えを知ろう」、「話し合ってみよう」の問いを適宜設け、方法や理由などを数学的に説明する記述式の問題が全ての章で設定されている。 9 電卓を使う場面を設定し、効率よく学習できるようになっている。 10 「図形」の作図や立体模型・5種類の正多面体の組み立て、因数分解や三平方の定理のパズル、「確率」のサイコロ、カードゲーム等、操作的活動を取り入れた内容になっている。 11 [用語・記号] は、各学年の内容と密接に関連させて取り上げた内容になっている。
--	--

教科書種目	発 行 者		教科書名(シリーズ)
	番 号	略 称	
数学	6 1	啓林館	未来へひろがる数学

項 目		項 目 毎 の 調 査 研 究 結 果
各教科共通の選定の観点	1 内容の範囲及び程度	学習指導要領に示す数学科の目標達成に結びつく内容になっている。 内容の程度は、各学年の発達の段階に適応している。 学習指導要領に示す教科及び各学年の目標に従い、学習指導要領に示す各学年の内容及び内容の取扱いに示す事項を不足なく取り上げている。
	2 内容に関する配慮事項	各教科等及び学年相互間の関連を図り、系統的・発展的な指導ができるよう配慮されている。 言語活動の充実については、節の導入には、必ず言語活動のコーナーを配置している。また、本文の「説明しよう」「話しあおう」「まとめよう」では、数学的な表現を用いて説明し伝え合う活動に取り組めるようになっており、量も豊富である。 体験的な学習や問題解決的な学習については、利用の節の始めの課題では問題解決の進め方を身の回りの場面や数学からスタートし、3ステップ方式で進められるように構成されている。また、章末の「学びを身につけよう」や巻末の「学びをいかそう」の問題等で問題解決的な学習が行えるようになっている。 個に応じた指導については、章末に基本的な「学びをたしかめよう」と発展・統合的な「学びを身につけよう」があり、個に応じた指導に対応している。また、「学びをたしかめよう」では、理解が不十分な場合には、右欄に書かれたページに戻って復習することができるようになっている。 早く問題を解き終わった生徒のために、問いの横欄に巻末の補充問題のページを記載している。 オプション部分の問題は、標準から応用までの幅広い問題で構成され、各章の最後に過去の公立高等学校の入試問題が取り上げられている。
	3 分量	配当時数は第1学年122時間、第2学年90時間、第3学年112時間であり、本文は、第1学年246ページ、第2学年192ページ、第3学年220ページと内容を精選している。 内容の配分も適切であり、各領域にも偏りはない。
	4 使用上の便宜	「本編」と「数学広場」の2部構成になっており、多様な学びに対応している。発展・深化させる課題は、巻末の「数学広場」に掲載されている。 巻頭で、「たいせつな考え方」「問題解決の過程」など、生徒にもわかりやすいような丁寧な説明がある。 各章の「章末問題」は「学びをたしかめよう」「学びを身につけよう」の2つのコーナーで構成され、習熟度別学習に対応している。また、各教科との横断学習や、高校数学の内容が記載されており、生徒が主体的に学習できるようになっている。 「○章のあしあと」には具体的なふり返りの例が掲載されているので、参考にすることができる。 「数学ライブラリー」では、身のまわりで数学が活用されている場面を紹介し、生徒の興味関心を深めることができる。

		QRコードが3学年で1384本と、豊富に掲載されている。本文横に配置されているので、自然な流れで活用できる。コンテンツの種類や概要も示されている。すべての例題の動画解説があり、繰り返し学習など多様な学びに対応している。 資料、挿絵、写真、図などは学習に有効に働くよう適切に配置されている。発展的な学習内容については、章末や巻末で取り上げられている。 あらゆる箇所にQRコードが配置されており、補充問題や単元を振り返り、動画開設などにリンクされている。種類はシミュレーション、動画、スライドショー、リンク、解説、補充問題、CBTテスト、前学年までのまとめなど多様である。
	5 印刷・製本等	ユニバーサルデザインフォントやカラーユニバーサルデザインに配慮している。グラフの種類やマークを色だけで区別するのではなく、番号や文字もあわせてそえている。意味や文節での改行を行い、単語途中での改行は行わないようにしている。
教科ごとの選定の観点		1 数学科の総括目標の達成に資する内容となっている。 2 4領域構成になっている。またどの領域も、〔数学的活動〕を通して指導することができる内容となっている。 3 〔A 数と式〕 ・ 第2学年の「文字式の利用」では全国学力・学習状況調査で取り扱われている問題を取り上げている。 ・ 「連立方程式の利用」では、言葉の式や表、数直線をもとに数量関係を明らかにしている ・ 第3学年の「乗法公式」では、和と差の積から取り扱っている。 ・ 「平方根」で有効数字を取り扱っている。 ・ 「2次方程式」では前章からのつながりを意識して平方根、解の公式、因数分解の順に取り扱っている。 4 〔B 図形〕 ・ 2年の図形領域では、証明を記述する前に、見通しを立てることを大切に、丁寧に説明している。仮定、結論、根拠などのカードを動かしながら証明の方針や構造を自分で考えていくコンテンツ（QRコード）も用意されている。 ・ 「相似」では、「相似の中心」「相似の位置」という用語を取り扱う必要がある。 5 〔C 関数〕 ・ 2つの数量の関係を関数とみなして問題を解決する場面を各学年で設定し、問題発見・解決の過程で進められるよう、「ステップ方式」で扱っている。 ・ 「一次関数の利用」では、全国学力・学習状況調査や高校入試で扱われているような題材・問題を取り扱っている。 6 〔D データの活用〕 ・ 「1年データの活用」では、PDCAサイクルを意識して学習に取り組めるよう、他の単元とは紙面構成を変えている。 ・ データの傾向を読み取り、判断の理由を説明する場面を各学年でくり返し設け、数学的な表現を用いて判断の理由を説明できる力を継続して育ていくようにしている。

	・ 「確率」「箱ひげ図」の順になっている。 ・ 「確率」では、袋の中から同時に2個の玉を取り出す事象を取り扱う必要がある。 ・ 「標本調査」では、利用部分の問をもう少し増やすとよい。 7 数学的活動については、学習指導要領解説に示されている9つの数学的活動例の題材はほぼ全てに設定されている。また、題材の半分以上が各章の「利用」のページで取り上げられているため、指導者は数学的活動を意識して取り組むことができる。 8 「説明しよう」「話し合おう」「まとめよう」で、根拠を明らかにし、筋道立てて説明する場面を設定している 数学的な見方考え方を身につけさせるために、どんな考え方を使っているか、本文に下線をひき、右側に具体的な「標識」を配置している。さらに、「問題発見」「問題解決」を色で区別しており、繰り返し目にすることで自然と身につくようにしている。 9 電卓を使う場面を設定し、効率よく学習できるようになっている。また、本文中にQRコンテンツを配置し、効果的に学習が進められるようになっている。 10 「図形」の作図や確率のサイコロ、トランプ等、操作的活動を取り入れた内容になっている。また、図形の操作的活動をデジタルコンテンツで行うこともできる。 11 〔用語・語句〕は、各学年の内容と密接に関連させて取り上げた内容になっている。
--	---

教科書種目	発 行 者		教科書名(シリーズ)
	番 号	略 称	
数学	1 0 4	数研	これからの 数学

項 目		項 目 毎 の 調 査 研 究 結 果
各教科共通の選定の観点	1 内容の範囲及び程度	学習指導要領に示す数学科の目標達成に結びつく内容になっている。 内容の程度は、各学年の発達の段階に適応している。 学習指導要領に示す教科及び各学年の目標に従い、学習指導要領に示す各学年の内容及び内容の取扱いに示す事項を不足なく取り上げている。
	2 内容に関する配慮事項	各教科等及び学年相互間の関連を図り、系統的・発展的な指導ができるよう配慮されている。 言語活動の充実については、「Q」や「TRY」などで、対話形式による問いかけをふんだんに取り入れており、全国学力・学習状況調査を意識した構成になっている。また、対話中には、誤った考えに基づく発言や、新たな疑問も示されており、それらを使って生徒に考えるきっかけを与えることができるようになっている。対話の中で、数学的な考え方を意識させた題材や全国学力・学習状況調査で課題になっている「説明すること」について取り扱っている。さらに、後見返しに学び方についてのチェックシートを用意し、自立的な学び、協働的な学びそれぞれについて学び方に対する意識が高まるようにしている。ただし、掲載されている対話をどのように活用していくのか指導者の力量が問われると考える。 体験的学習や問題解決的な学習については、章の中で学んだ内容について視点を変えて考えてみたり、身のまわりの問題の解決に取り組んでみたりすることで、思考力・判断力・表現力が培われるようにしている。「Q」や「TRY」を中心に教科書全体が、問題解決型の学習を前提として構成されている。指導者にとっては、どの問題に重点を置いていくのか工夫が求められる。また、章末に新設された「学んだことを活用しよう」でも問題解決型を意識した過程となっている。 個に応じた指導については、項目によって「練習問題」を設け、早く終わった生徒のためにQRコンテンツで補充問題を設定している。また、節ごとに確認問題を設け、分からない問題に戻れるように右欄にページを記載している。章末のまとめは基本的な「問題A」と発展的な「問題B」の2段階で設定されている。巻末には「チャレンジ編」も用意されており、習熟度に応じて幅広く対応することができる。
	3 分量	配当時数は第1学年123時間、第2学年98時間、第3学年124時間であり、本文は、第1学年256ページ、第2学年210ページ、第3学年252ページで、授業時数から見て適切な分量である。 内容の配分も適切であり、各領域にも偏りはない。
	4 使用上の便宜	1単位時間で扱う内容を見開き2ページにまとめられている。 グラフや図を描く問題は、書き込みやすいように外側に配置している。 資料、挿絵、写真、図などは学習に有効に働くよう適切に配置されている。 発展的な学習内容についてはマークが明記されており、章末や巻末に掲載されている。 デジタルコンテンツについては、QRコンテンツが本文中に502箇所

		掲載されている。種類は解説動画、補充問題、資料、シミュレーション、探究問題などである。教科書本文に「Link 補充」や「Link イメージ」があり、同頁下部には対応するQRコードがあり、補充問題や動画での解説のWEBページにリンクされている。また、過去5年間分の全国入試問題にもアクセスできるようになっている。特に「Link・イメージ」は、任意で点を決められる。立体の切断など操作性が高い。「Link・考察」は、自由度が高く交流の教材である。「Link・探究」は、活用問題であり、対話型で問題解決できるようになっている。
	5 印刷・製本等	ユニバーサルデザインフォントやカラーユニバーサルデザインに配慮している。印刷は鮮明であり、文字の大きさ、字体、行間も適切である。製本の様式、材料なども適切である。 巻末の教具は、制作や観察に生かせるもので、ミシン目も入っていて簡単に切り離せるなど、細かい配慮がなされている。
教科ごとの選定の観点		1 数学科の総括目標の達成に資する内容となっている。 2 4領域構成になっている。またどの領域も、〔数学的活動〕を通して指導することができる内容となっている。 3 〔A 数と式〕 ・ 「文字式の利用」では、学習指導要領解説や全国学力・学習状況調査で扱われているような題材・問題を取り上げている。 ・ 「連立方程式の利用」では、立式の段階で、数直線や表を利用して数量関係を明らかにしている。全国学力学習調査等で特に意味の理解に課題がある問題を丁寧に扱っている。さらに国立教育政策研究所とリンクしている。 ・ 「2次方程式」の解き方は、因数分解・平方根・解の公式の順に取り扱われている ・ 「式の計算」章の導入問題の解法が、章末で取り上げられている。 ・ 「平方根」で、近似値と有効数字を取り扱っている。乗除の混じった計算を取り上げる必要がある。また、活用の節（項）に工夫が必要である。 4 〔B 図形〕 ・ 「証明のしくみ」の節を設け、「見通しをたてて証明する」内容になっている。 ・ 「相似」相似の証明は、1つの相似条件（2組の角）のみ取り扱っている。 5 〔C 関数〕 ・ 「1次関数の利用」では全国学力・学習状況調査や高校入試で扱われているような題材・問題を取り上げている。 ・ 第3学年「関数」では、いろいろな関数で、取り扱う種類をもう少し増やすとよい。 6 〔D データの活用〕 「箱ひげ図」「確率」の順になっている。 7 数学的活動については、学習指導要領解説に示されている9つの数学的活動例の題材は概ね設定されている。題材の多くが「利用」のページ以外で取り扱われているため、指導者は数学的活動に留意しながら取り組む必要がある。 8 「Q」や「TRY」で、事実・方法・理由などを説明する問いや自分の考

	えを他者に伝える場面が設定されている。 9 電卓を使う場面を設定し、効率よく学習できるようになっている。また、本文中にQRコンテンツを配置し、効果的に学習が進められるようになっている。 10 「図形」の作図や立体模型の組み立て、因数分解や三平方の定理のパズル、「確率」のサイコロ、トランプ等、操作的活動を取り入れた内容になっている。 11 〔用語・記号〕は、各学年の内容と密接に関連させて取り上げた内容になっている。
--	--

教科書種目	発 行 者		教科書名(シリーズ)
	番 号	略 称	
数学	1 1 6	日文	中学数学

項 目		項 目 毎 の 調 査 研 究 結 果
各教科共通の選定の観点	1 内容の範囲及び程度	学習指導要領に示す数学科の目標達成に結びつく内容になっている。 内容の程度は、各学年の発達の段階に適応している。 学習指導要領に示す教科及び各学年の目標に従い、学習指導要領に示す各学年の内容及び内容の取扱いに示す事項を不足なく取り上げている。
	2 内容に関する配慮事項	各教科等及び学年相互間の関連を図り、系統的・発展的な指導ができるよう配慮されている。 言語活動の充実については、各小節において「話し合おう」や「説明できるかな?」を適宜設けている。「学び合おう」の課題が各学年4つずつ掲載されており、主体的・対話的な学びが実現できるようにしている。キャラクターの発言を参考に、話し合いの視点を持たせている。「対話シート」を使って、自分の考えを整理し、説明する力を高めることができるようにしている。数学的な表現を用いて説明している場面は、生徒の吹き出しやノート風の枠で示している。 体験的な学習や問題解決的な学習については、5つのステップで問題解決型の授業展開を、明確に示しており、巻末の切り取って使える「対話シート」を活用することにより、自他の考えを書いたり、振り返りをしたりすることができるようになっている。また、各小節の横欄には、その場面で必要な「数学的な見方・考え方」が具体的に分かりやすく示されている。 個に応じた指導については、早く問題を解き終わった生徒のために、問いの横欄にチャレンジ問題を記載している。また、「チャレンジ」の解答は次ページの脚注として掲載されており、活用しやすい。また、節末の「基本の問題」では、1問ずつ戻るべき箇所が明示されており、復習しやすくなっている。各節末に「基本の問題」として、基礎・基本の定着を図っている。章末には、基本的な「章の問題」と応用的な「とりくんでみよう」の2段階で構成されており、個に応じた指導に対応している。
	3 分量	配当時数は第1学年123時間、第2学年97時間、第3学年115時間であり、本文は、第1学年246ページ、第2学年200ページ、第3学年214ページで、授業時数から見て適切な分量である。 内容の配分も適切であり、各領域にも偏りはない。
	4 使用上の便宜	目次で、「これまでに学んだこと」として既習事項とのつながりを示している。各章の初めには、「次の章を学ぶ前に」のページがあり、過去の学習とつなげ、つまずきを未然に防ぐことにつながる。 巻頭「学びに向かう力を育てよう!」で、「主体的に学習に取り組む態度」とはどのようなものか、生徒にもわかりやすいよう、具体例とともに示している。実際の課題は、各章に1カ所以上設けられており、巻末にある「対話シート」や「振り返りシート」を活用して、学びの過程や変容を見取ることができる。 各小節では、学習場面の横に「大切な見方・考え方」を示すことで、生徒が数学的な見方考え方を意識しながら学習を進めることができるようにしている。

		る。学習を振り返る際も、問題解決の場面でどのような数学的な見方考え方を働かせたのか確認できる。 各小節は原則として見開き 2 ページ構成で、1 時間の授業に対応している。めあてを明確にすることで、生徒が目的を持って主体的に学習に取り組むことができるようにしている。 表やグラフ、図形の証明等において、多くを四角抜きにしたり直接教科書に書き込むようにしたりして、学習プリントのように使用できるように工夫されている。 デジタルコンテンツについては、QR コンテンツが本文中に 391 箇所で開催されている。種類はアニメーション動画、練習問題、リンク、シミュレーション、図形のまとめ、統計分野のアプリケーションなどである。 資料、挿絵、写真、図などは学習に有効に働くよう適切に配置されている。発展的な学習内容についてはマークが明記されている。
	5 印刷・製本等	ユニバーサルデザインフォントやカラーユニバーサルデザインに配慮している。印刷は鮮明であり、文字の大きさ、字体、行間も適切である。製本の様式、材料なども適切である。巻末の教具は、制作や観察に生かせるもので、ミシン目も入っていて簡単に切り離せるなど、細かい配慮がなされている。
教科ごとの選定の観点		- 数学科の総括目標の達成に資する内容となっている。 4 領域構成になっている。またどの領域も、〔数学的活動〕を通して指導することができる内容となっている。 〔A 数と式〕 「文字式の活用」では、学習指導要領解説や全国学力・学習状況調査で扱われているような題材・問題を取り上げている。 「連立方程式の活用」では、立式の段階で、表を利用して数量関係を明らかにする場面が多く、わかりやすい。 「平方根」の最後で、有効数字を取り扱っている。 「2 次方程式」の解き方は、因数分解・平方根・解の公式の順に取り扱っている。 〔B 図形〕 「証明の方針」の節を設け、「構想を立てて証明する」内容になっている。 「多角形の内角の和」を求める場面では、図と式を関連づけて考え方を読み取ったり、証明を読んで新たな性質を見いだしたりする活動を設けている。 - 第 2 学年「三角形と四角形」では、反例を丁寧に押さえている。 〔C 関数〕 「1 次関数の活用」では全国学力・学習状況調査や高校入試で扱われているような題材・問題を取り上げている。 〔D データの活用〕 「確率」「箱ひげ図」の順になっている。「箱ひげ図」では、具体的な数値を記載したドットプロットと箱ひげ図を対応させた図を示しており、分かりやすい。 「標本調査」調査方法や結果が適切か考察する内容が本文中に含まれている。 - 数学的活動については、学習指導要領解説に示されている 9 つの数学的

	活動例の題材はほぼ全て設定されている。また、題材のほとんどが各章末の「学び合おう」で取り上げられているため、指導者は数学的活動を意識して取り組むことができる。また、巻頭の「数学を始めよう」では、問題解決的な学習の解決の過程における学びのポイントが具体的に分かりやすく示されている。 8 事柄や事実、方法、理由などを数学的な表現を用いて説明する問題が「説明できるかな？」として出題されている。また、全ての章の章末には数学的に説明する記述式の問題が設定されている。 9 電卓を使う場面を設定し、効率よく学習できるようになっている。 10 「図形」の作図や多面体の組み立て、「確率」のサイコロ、因数分解のタイル操作、トランプ等、操作的活動を取り入れた内容になっている。 11 〔用語・記号〕は、各学年の内容と密接に関連させて取り上げた内容になっており、初出の数学用語の使い方を理解できるように、その用語を使った表現の具体例が「表現の例」として示されている。
--	--